

今月のテーマ
地方創生

市長の
心と手
～自らの思いを皆さんに語るコラム～

最近「地方創生」という言葉が耳にすることがありませんか？

日本の人口が減少し始める中で、地方が成長する活力を取り戻し、人口減少を克服しよう、というのが、この言葉がつくられた意図です。

そして日本中の県や市町村が、将来の人口をどの程度にするかという「長期人口ビジョン」と、そのためにどんな取り組みをしていくのかを示す「総合戦略」をおおむねこの二年間で策定しました。

長崎市も、市民や議会、経済界、教育機関、行政、金融機関、労働団体、マスコミなどさまざまな意見を聞きながら、一年ほどの時間をかけて、今年3月につくりあげました。

……交流の形は変わっても、常に長崎は人が訪れることで活気づいてきました。

そこで、これからの時代にふさわしい、新しい長崎の交流スタイルをみんなでつくろう、それを産業に結びつけて経済効果を上げよう、その流れをとおして人口減少も食い止めよう、というのが長崎版地方創生の柱の一つです。

この戦略の名前は「ながさき未来Dejima戦略」。かつて出島が存在が人を呼んだように、長崎のまち全体の魅力を高めて人を呼ぼうという思いが込められています。ひらがな(和)、漢字(華)、ローマ字(蘭)を組み合わせているのは、長崎の和華蘭文化の魅力を高めて人を呼ぼうという意味です。

政府は、東京オリンピック・パラリンピックが開かれる2020年までに、日本を訪れる外国人を今の2倍の4000万人にするという目標を掲げました。そのためには外国人が地方都市にも行くようにならなければなりません。そのモデル都市として、全国から、金沢市、釧路市ともに長崎市が選ばれました。このチャンスも活かしながら、長

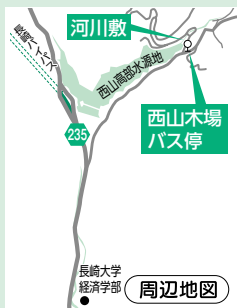
崎版の地方創生を進めようと思えます。

でも、実は「人を呼んで栄えるまち」への取り組みは、これから始めるものではありません。私たちは既に10年をかけて、新しい長崎の交流スタイルをつくる努力をしてきました。まち歩き「長崎さくら」がそのスタートです。「ながさき未来Dejima戦略」は既に始まっているのです。

私は、まちの進む方向を定めるような大きなまちづくりには20年から30年の時間がかかると思っています。この10年間、夜景や世界遺産、外国人観光客対応などの取り組みを進めてきました。これから先の取り組みが成功するかどうかは、多くの「当事者」が生まれるかどうかにかかっています。もちろん私自身も、この取り組みの先頭に立って、当事者として参加を呼びかけながら進めていきます。

そして、この戦略の成功を、子育てや暮らしやすさをつくる財源や仕組みづくりにつながる、長崎をもっと住みやすく魅力的なまちにしていきたいと考えています。

ここで紹介した総合戦略については10～11ページに特集記事を掲載しています。



第2日曜日には地元の農産物や加工品を販売する「木場町マルシェ」を開催

水と緑の豊かな風景が広がる



水辺に親しめる蜜の名所
西山木場地区

長崎駅からバスで約15分。西山木場バス停で下車すると西山高部水源と河川敷が作り出す美しい景色が広がる。

街から近い場所に、こんな涼しげな場所があったのかと驚きつつ、河川敷に下りてみる。

八重桜、ツツジ、アジサイ、紅葉などさまざまな植物が植えられており、季節ごとに美しい花を楽しむことができる。

川のせせらぎが心地よく、とても癒やされるのでデートをしたり、周辺をウォーキングしたりするのも良いだろう。

また、5月28日(土)は「木場町ほたる祭り」が、木場公園や河川敷一帯で開催される。

地元の農産物や、おいしい料理が販売されるほか、吹奏楽の演奏なども楽しめるので、家族や友人と出かけてみてはいかがだろうか。